



徳川慶喜書「愛敬」

目 次

博物館のあゆみ

平成12年度	2
平成13年度	8
博物館の名品	13

博物館のあゆみ

平成12年度

館 内 業 務

1. 特別展「徳川秀忠」

会期＝平成12年 3 月18日～ 4 月18日

徳川記念財団設立準備室・静岡新聞社・SBS静岡放送の共催、静岡県・静岡市・清水市各教育委員会の後援、(財)徳川黎明会・(財)水府明德会・静岡葵博実行委員会・静岡鉄道株式会社の特別協力を得て開催。

2. 平常展

○会期＝平成12年 4 月19日～ 6 月30日

館蔵の重文太刀正恒、重文白檀塗具足等100余点を展示。

○会期＝平成12年 7 月 1 日～ 9 月30日

館蔵の家康手沢品を中心に100余点を展示。

○会期＝平成12年10月 1 日～12月31日

館蔵の刀剣・甲冑・染織・書画及び家康遺品を展示。

○会期＝平成13年 1 月 1 日～ 4 月15日

館蔵の美術工芸の優品を100余点展示。

3. 館報第16号の発行

○平成12年 9 月10日、平成10・11年度の博物館のあゆみを報告する「館報第16号」を発行し、関係諸機関に配布。

4. 資料の寄贈

○平成12年 9 月 1 日、望月三喜雄氏より、雲文蒔絵合口拵1腰の寄贈を受けた。

5. 刀剣鑑賞会の実施

○平成12年10月 7 日、(財)日本美術刀剣保存協会横浜支部の依頼により館蔵の刀剣（国宝太刀真恒、重文太刀光世・太刀高実等10口）の鑑賞会を実施・参加者31名。

6. 葵 徳川三代記念絵ハガキの作成

○平成12年10月23日、葵 徳川三代（家康・秀忠・家光）を記念し、館蔵の中よりゆかりの品々を1組とした絵ハガキを2000部作成。

館 外 業 務

1. 資料の出品

○特別展「将軍家綱・綱吉と宮廷の美」

会期・平成12年2月29日～4月9日

会場・群馬県立歴史博物館

紫絲威具足・縹絲威具足・太刀國正・稼穡図屏風・頬当・軍配・桂昌院詠草を出品。

○NHK大河ドラマ「葵 徳川三代展」

会期・平成12年3月29日～4月5日

会場・静岡松坂屋本館

徳川家康自筆覚書・同秀忠自筆書状・同家光筆和歌色紙を出品。

○特別展「勝海舟展」

会期・平成12年4月13日～5月14日

会場・霊山歴史館

勝海舟筆『実割梅の記』と短刀広次を出品。

○「徳川御三家展」

会期・平成12年4月22日～5月21日

会場・香川県歴史博物館

重文太刀國行（徳川吉宗寄進）附太刀拵と馬面（伝徳川家茂所用）を出品。

○「葵～徳川三代～展」

①会期・平成12年4月29日～6月11日

会場・江戸東京博物館

重文和剂局方・太刀雲次・茶絲威具足等18件出品。

②会期・平成12年6月27日～7月23日

会場・静岡アートギャラリー

扁額「東照大権現」・貫衆具足・薙刀志津等19件出品。

③会期・平成12年7月29日～9月17日

会場・徳川美術館

国宝太刀真恒、重文太刀雲次・伽羅等8件出品。

④会期・平成12年9月30日～11月5日

会場・和歌山県立博物館

重文齒朶具足・和剂局方・伽羅等18件出品。

⑤会期・平成12年11月14日～12月17日

会場・徳川博物館

重文齒朶具足・太刀雲次・和剂局方等18件出品。

○「近世土佐の砲術師—徳弘孝蔵の生涯—展」

会期・平成12年7月20日～9月3日

会場・高知県立歴史民俗資料館

重文火縄銃1挺を出品。

○特別展「紀州徳川家と葵三代」

会期・平成12年7月29日～8月27日

会場・和歌山市立博物館

重文口宣案・宣旨案・位記案、鷲図・和紙懷紙「心あらん」等 9 件出品。

○特別展「徳川義直―尾張藩初代藩主の生涯―」

会期・平成12年10月 7 日～11月 6 日

会場・名古屋城天守閣

徳川義直自筆書状 1 幅を出品。

○「駿府寺社名宝展」

会期・平成12年10月18日～11月26日

会場・駿府博物館

東照大権現像・徳川家康自筆覚書・徳川秀忠書状・徳川家光筆「雪月花」・越中頭形兜等 9 件出品。

○特別展「一象がゆく―將軍吉宗と宮廷 雅」

会期・平成12年10月28日～12月10日

会場・埼玉県立博物館

重文太刀國行・太刀末守、紺絲威鎧・八方白星兜・六十二間筋兜・鎧直垂等10件出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成12年 5 月25日

会場・静岡県立美術館

平成12年度総会が開催され、松浦館長・小林学芸部長が出席。松浦館長が会長を辞任。

3. 大名道具収蔵館集会

期日・平成12年10月13日～14日

会場・岡山市

第 9 回集会が開催され、小林学芸部長が出席。研究会の後、林原美術館等を視察。

4. 国際歴史フォーラム

期日・平成12年11月 3 日

会場・静岡市民文化会館

静岡葵博実行委員会が大御所時代の駿府を語るフォーラムを開催し、小林学芸部長が出席。

庶務報告

1. 平成12年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	4,714	447	1,095	777	492	111	7,636
5月	5,365	403	1,459	789	631	66	8,713
6月	2,277	84	1,310	294	254	5	4,224
7月	2,323	160	487	469	251	17	3,707
8月	5,708	1,008	340	1,101	351	30	8,538
9月	3,413	168	624	555	315	15	5,090
10月	4,114	131	1,581	732	580	80	7,218
11月	4,567	202	1,710	670	524	42	7,715
12月	2,378	106	1,096	296	197	14	4,087
1月	3,935	347	157	453	242	13	5,147
2月	3,464	180	383	510	293	34	4,864
3月	3,642	398	471	501	339	48	5,399
計	45,900	3,634	10,713	7,147	4,469	475	72,338

2. その他

- 4月4日 NHK大河ドラマ展の撤収に小林学芸部長が静岡松坂屋本館へ出向。
- 4月10日 特別展「将軍家綱・綱吉と宮廷の美」の撤収に小林学芸部長が群馬県立歴史博物館へ出向。
- 4月13日 大塚巧藝社写真部がNHKの依頼により資料を撮影。
- 4月14日 NHK依頼の資料の借り出しに小林学芸部長が奈良国立博物館・天理大学図書館へ出向。
- 4月17日 テレビ静岡が家康像・白檀塗具足・久能山絵図を撮影。
- 4月19日～21日、24日～27日及び5月13日、特別展拝借資料返却のため、小林学芸部長が静岡市内・清水・名古屋・福井・京都・三島・東京・日光・水戸へ出向。
- 4月28日 「葵 徳川三代展」の飾付に小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 5月22日 展示替えに小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 6月9日 能美防災がハロンガスを点検。
- 6月12日～15日 「葵 徳川三代展」の撤収に小林学芸部長が従事。
- 6月20日～21日 「葵 徳川三代展」の資料返却に小林学芸部長が奈良国立博物館・神宮徴古館・静岡浅間社へ出向。
- 6月23日～24日 「葵 徳川三代展」の飾付に小林学芸部長が静岡アートギャラリーへ出向。
- 6月26日 「葵 徳川三代展」(於静岡アートギャラリー)の開会式に松浦館長が出席。

- 7月5日及7日 NHK名古屋が当館を取材し、資料を撮影。
- 7月6日 徳川美術館へ小林学芸部長が出向。
- 7月10日 展示替えに小林学芸部長が静岡アートギャラリーへ出向。
- 7月12日 展示室・保存室の温度を22℃に変更。
- 7月17日 空調設備を点検。
- 7月23日及24日 静岡アートギャラリーの資料撤収に小林学芸部長が従事。
- 7月27日及28日 徳川美術館の「葵 徳川三代展」の飾付に小林学芸部長が従事。
- 8月2日 「葵 徳川三代展」の資料返却に小林学芸部長が江戸東京博物館・波多野家へ出向。
- 8月5日 SBS学苑で小林学芸部長が講話。
- 8月18日及19日 「葵 徳川三代展」の資料拝借のため、小林学芸部長が致道博物館へ出向。
- 8月18日 館報等の用件で小林学芸部長が大塚巧藝社へ出向。
- 9月15日 静岡葵博に協力し、静岡朝日テレビに洋時計・目器・鉛筆・鋏・コンパス・ビイドロ壺の撮影を許可。
- 9月27日～29日 「葵 徳川三代展」(和歌山県立博物館)の飾付に小林学芸部長が従事。
- 11月6日及7日 「葵 徳川三代展」の撤収に小林学芸部長が和歌山県立博物館へ出向。
- 11月12日及13日 「葵 徳川三代展」の飾付に小林学芸部長が徳川博物館へ出向。
- 11月14日 徳川博物館の増築記念式典に松浦館長・小林学芸部長・仁科会計主任が出席。
- 12月5日 空調機の点検(温度20℃変更)が行われた。
- 12月8日 徳川記念財団の用件で小林学芸部長が同財団準備室へ出向。
- 12月11日 「将軍吉宗と宮廷 雅展」の撤収に小林学芸部長が埼玉県立博物館へ出向。
- 12月18日 「葵 徳川三代展」の撤収に小林学芸部長が従事。ついで翌19日 同展資料返却のため不動院へ出向。
- 12月20日 ハロンガスの点検が行われた。
- 1月25日 静岡第一テレビ(仲田均氏)が徳川慶喜のカメラを取材・撮影。
- 2月1日 静岡県立美術館主催の「風景画ができるまで」展の開催式に小林学芸部長が出席。
- 2月10日 彦根城博物館の開館記念で小林学芸部長が講演。演題「徳川家康と久能山東照宮の名宝」。
- 2月23日 企画展の打ち合わせのため、小林学芸部長が徳川記念財団設立準備室へ出向。
- 2月27日 空調のフィルターを交換。
- 2月28日 日本美術刀剣保存協会横浜支部長小泉富太郎氏が三池の太刀模造の件で刀匠宮入氏を伴い来館。
- 3月8日 NHK静岡(細野真孝氏)が洋時計と目器を取材・撮影。
- 3月22日 徳川記念財団設立準備室より松平乗昌氏・柳田直美氏・徳川典子氏が当館展示室の視察を兼ね、企画展の打ち合わせに来館。
- 3月27日 企画展広報の打ち合わせのため、小林学芸部長が静岡新聞社・SBS静岡放送へ出向。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。
堀則雄氏(静岡アートギャラリー館長、4月2日、6日、及び6月10日)、島田関郎氏

(駿府博物館長、4月3日)、木村幸比古氏(霊山歴史館学芸課長、4月5日)、堀田卓爾氏(華陽院住職、4月5日)西条道文氏(静岡松坂屋、4月5日)、高橋美奈子氏(NHKプロモーション、4月7日)、勝間田昌子氏(静岡アートギャラリー学芸員、4月8日)、尾崎三宏氏(運正寺住職、4月8日)、三尾功氏(和歌山市立博物館館長、4月12日)、松岡明子氏・胡光氏(香川県歴史博物館、4月13日及び5月25日)、北見登氏(大塚巧藝社、4月13日)、井出洋子氏(故井出孝氏夫人、4月13日)、山田元樹氏(大牟田市教育委員会、4月15日)、黒田儀男氏(アーバンクレスト代表取締役、4月15日)、徳川義宣氏(徳川美術館長、4月17日)、大隅繁吉氏(徳川宗家執事、4月17日)、鶴田孝一氏(大塚巧藝社営業部長、4月17日及び1月12日)、太田氏(静岡市文化財資料館長、4月17日)、館石昌宏氏(テレビ静岡記者、4月17日)、三木範治氏(日本城郭史学会、4月18日)、松平乗昌氏(霞会館資料展示委員会副委員長、4月22日、7月19日、10月18日及び12月16日)、柳田直美氏(同上、学芸員、4月22日)、小池浩平氏(群馬県立歴史博物館学芸員、4月22日)、辰本清隆氏(PHP、4月22日)、後藤正人氏(富士宮北高教諭、5月3日)、石田裕信氏(霊山歴史館、5月19日)、小川徹氏(NHK名古屋制作ディレクター、5月30日、7月5日及び7日)、高木一義氏(香川県歴史博物館副館長、6月6日)、西野和豊氏(フェルケール博物館副館長、6月7日)、山科氏(NHKプロモーション、6月22日)、安本収氏(駿府博物館学芸部長、6月29日、10月12日及び11月29日)、小嶋泉氏(名古屋城、7月5日)、塚原明子氏(名古屋城学芸員、7月5日、10月1日、11月9日及び1月28日)、勝野洋氏(俳優、7月7日)、日比野秀男氏(常葉美術館長、7月10日)、泉誠司氏(高知県立歴史民俗資料館主任学芸員、7月15日及び9月6日)、古谷未来氏(霞会館資料展示委員会、7月19日)、杉山正司氏(埼玉県立博物館主任学芸員、7月19日)、高橋克伸氏(和歌山市立博物館主任学芸員、7月21日及び8月31日)、菊地千秋氏(NHKプロモーション、7月25日)、鈴木真弓氏(コピーライター、8月4日)、山下晃氏・天野忍氏(全国高校文化祭担当、8月7日)、豊田幹夫氏(フェルケール博物館長、8月11日)、黒沢脩氏(静岡葵博実行委員会、8月23日及び9月13日)、内田氏(山梨県春日居町郷土館運営協議会委員、8月31日)、望月亮二氏(静岡朝日テレビ営業部副部長、9月13日及び15日)、石川雅英氏(クロスTVプロデューサー、9月13日及び15日)、三木光次氏(明大校友会、9月14日)、鈴木基之氏(静岡中央高教諭、9月16日)、松崎一洋氏(NHKプロモーション、9月20日及び21日)、内田雅之氏(熱田神宮宝物館学芸員、9月21日)、小泉富太郎氏(日本美術刀剣保存協会、10月7日)、渡辺喜雄氏・河端照孝氏(同上、10月7日)、小和田哲男氏(静岡大学教育学部長、10月15日)、北村欽哉氏(県立庵原高教諭、10月16日)、吉田さち子氏(霞会館資料展示委員会、10月18日及び12月16日)、栗原俊氏(NHK事業本部チーフプロデューサー、11月9日)、平野弘氏・杉山知太郎氏(平野美術館、11月24日)、大美慶昌氏(NHK事業本部、12月21日)、宮沢保氏(東京海上火災保険、12月25日)、井口信久氏(川越市教育委員会、12月31日)、徳川義崇氏夫妻(徳川黎明会専務理事、1月28日)、長谷川孝徳氏(石川県立歴史博物館、2月21日)、稲森栄蔵氏(3月14日)、石塚氏(SBSプロモーション、3月22日)。

平成13年度

館 内 業 務

1. 特別展「徳川将軍家伝来 人形とひな道具」
会期＝平成14年 3 月 3 日～4 月 8 日
徳川記念財団設立準備室と共催し、静岡鉄道株式会社の特別協力を得て開催。天璋院・和宮遺愛の人形やひな道具100余点を展示。
2. 特別展「徳川宗家 将軍」
会期＝平成13年 4 月16日～7 月15日
徳川記念財団設立準備室主催の特別展に協力し、館蔵の甲冑・刀剣等を展示。尚、開催当日には内覧会を行い、約100名の出席者があった。特別展の取材は下記の通りである。
さんらいふ（4月11日）、日経新聞社（4月13日）、SBS静岡放送・静岡新聞社（4月16日）、産経新聞社（4月16日）、静岡朝日テレビ（4月17日）、SBSラジオ（6月14日）。
3. 平常展
○会期＝平成13年 7 月16日～10月15日
「久能山東照宮の文化財展」と題し、刀剣・甲冑・書画・染織・調度の優品を展示。
○会期＝平成13年10月16日～平成14年 1 月18日
「徳川将軍家の文化財展」と題し、歴代将軍の遺筆・遺品の優品を展示。
○会期＝平成14年 1 月19日～3 月 2 日
「徳川将軍家伝来の什宝展」と題し、将軍家ゆかりの品々約100点を展示。
4. 資料の撮影
○平成13年 6 月26日、(株)大塚巧藝社写真部に依頼し、軍配団扇・和宮東下図・織田信長黒印状等のカラー撮影を行った。
5. 資料の購入
○平成14年 1 月31日、板倉重宗自筆書状 1 通を購入した。本書状は寛永13年の日光東照宮真名縁起奉納に関わる京都所司代板倉重宗の染筆になるもの。

館 外 業 務

1. 資料の出品
○特別展「日本のうちわ～涼と美の歴史～」
会期・平成13年 7 月31日～8 月26日
会場・岐阜市歴史博物館
重文団扇と軍配団扇（徳川家宣所用）を出品。
○特別展「一京都・日光・例幣使―光格天皇と幻の将軍」
会期・平成13年 9 月11日～10月21日
会場・栃木県立博物館
重文太刀守家（附太刀拵）・太刀安則と紅絲威具足、洋犬図、猫哺金魚図、大黒頭巾形兜、徳川家斉将軍宣下御大札町入能之図を出品。
○「利家とまつをめぐる人々展」
会期・平成13年10月 6 日～11月 4 日
会場・石川県立歴史博物館
重文金陀美頭形兜・黒鮫柄合口拵、東照大権現像（天海賛写）、織田信長黒印状を出品。

○特別展「武士の祈り—武具にみる神仏の姿—」

会期・平成13年10月6日～11月5日

会場・名古屋城天守閣

大黒頭巾形兜1頭を出品。

○企画展「弓をもつ人々」

会期・平成13年10月13日～11月25日

会場・行田市郷土博物館

葵紋付手袋を出品

○「香道展」

会期・平成13年10月20日～11月25日

会場・笠間稲荷美術館

重文鷲蒔絵香具箱・伽羅を出品。

○「鉄舟寺展」

会期・平成13年10月27日～12月16日

会場・フェルケール博物館

久能山絵図1幅を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成13年5月24日

会場・静岡県立博物館

平成13年度総会が開催され、小林学芸部長が出席。

3. 大名道具収蔵館集会報告書の作成

- 平成13年5月31日、第8回大名道具収蔵館集会（平成11年開催）の報告書を作成し、徳川美術館・彦根城博物館等の呼びかけ館23館へ配布した。

庶務報告

1. 平成13年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	4,396	295	515	669	333	5	6,213
5月	5,511	357	799	680	529	53	7,929
6月	2,594	85	927	397	284	241	4,528
7月	2,186	154	313	392	248	24	3,317
8月	3,773	640	144	667	275	11	5,510
9月	2,483	94	523	359	309	37	3,805
10月	2,785	106	991	439	537	60	4,918
11月	3,188	151	1,157	437	693	47	5,673
12月	1,958	104	118	229	219	13	2,641
1月	3,992	312	188	388	273	16	5,169
2月	3,093	230	220	355	203	91	4,192
3月	5,144	371	377	664	397	188	7,141
計	41,103	2,899	6,272	5,676	4,300	786	61,036

2. その他

- 4月9日、特別展「徳川宗家 将軍」の飾付を行った。
- 4月27日、「ロダンと日本」展（於静岡県立美術館）の開催式に小林学芸部長が出席。
- 5月5日、子供の日にあたり小・中学生を無料とした。
- 5月9日及6月5日、特別展の一部を展示替え。
- 5月22日、仙台市史編さん委員会（佐藤憲一・明石治郎・村岡淳子三氏）が当館の伊達政宗文書を調査した。
- 5月31日、宮城島良枝学芸員が退職。
- 7月5日、館内の温度を23℃に変更。
- 7月11日、能美防災が防火設備点検。
- 7月16日、9月25日、11月15日及1月18日、徳川宗家資料の展示替えに財団設立準備室学芸員柳田直美・徳川典子両氏来館。
- 7月19日及9月26日・27日、徳川宗家資料の件で小林学芸部長が財団設立準備室へ出向。
- 8月29日、東京芸術大学大学院生森中香奈子氏が重文合口拵の拝観に来館。
- 8月30日、「わが街映像記録」の資料撮影に静岡市教育委員会多々良典秀・三本松元樹両氏来館。
- 9月3日、朝日エンジニアリングが空調設備機器点検。
- 9月9日、出品資料飾付に小林学芸部長が栃木県立博物館へ出向。
- 10月4日、フェルケール博物館が特別展出品資料（久能山絵図）を撮影。

- 10月19日、出品資料飾付に小林学芸部長が笠間稲荷美術館へ出向。
- 10月22日、出品資料撤収に小林学芸部長が栃木県立博物館へ出向。
- 10月25日、静岡第一テレビ報道部カメラマン井出茂氏が当館を取材・撮影。
- 10月26日、空調設備機器を取り替えた。
- 11月19日、リコーテクノシステムズ保存点検。
- 12月19日、館内の温度を20℃に変更。
- 12月20日、ハロン点検。
- 12月23日、徳川記念財団設立準備室へ展示活動の件で小林学芸部長出向。
- 1月18日、エキスプレスの則竹利人氏が東照大権現像を取材・撮影。
- 1月22日、NHK事業局副部長原田達也氏・同局田中明美氏が江戸開府400年記念展の件で来館。
- 1月24日、特別展用務で小林学芸部長が大塚巧藝社へ出向。
- 1月28日、防災訓練実施。
- 2月5日、落合副館長がMOA美術館20周年記念レセプションに出席。静岡長田南中学生八木君等3名自由研究に来館。
- 2月13日、静岡高松中学生服部君等3名自由研究に来館。
- 2月25日、特別展用務のため、小林学芸部長が静岡新聞社事業局へ出向。
- 2月28日、空調設備機器フィルター交換。
- 3月1日、松浦国男館長が辞任し、落合偉洲副館長が新館長に就任。特別展資料拝借のため、小林学芸部長が東京の徳川宗家へ出向。
- 3月2日、徳川記念財団設立準備室長徳川恒孝氏夫妻、徳川典子・柳田直美両学芸員・広瀬公威財団準備室事務局長が特別展飾付に来館。
- 3月3日、特別展講話（講師 徳川幸子氏）開催。
- 3月31日、藤田和郎禰宜、権官司となり博物館副館長兼任。
- その他、この期間に下記の方々が来館した。

大塚清史氏（岐阜市歴史博物館学芸員、4月6日、7月26日及び8月28日）、松平乗昌氏（霞会館資料展示委員会副委員長、4月9日、16日、6月9日、9月5日、11月1日及び3月13日）、柳田直美氏・徳川典子氏（徳川記念財団設立準備室学芸員、4月9日・10日・16日、5月9日、6月5日・6日）、伊藤洋子氏（さんらいふ記者、4月11日）、岡田直子氏・剣持常幸氏（日経新聞社記者、4月13日）、徳川恒孝氏（徳川記念財団設立準備室長、4月16日）、徳川幸子氏（徳川宗家令室、4月16日及び7月11日）、徳川家広氏（徳川宗家令息、4月16日及び6月5日・6日）、三本文年氏（徳川宗家執事、4月16日及び3月30日）、酒井忠久氏（致道博物館長、4月16日）、阿部正鉦氏・水野勝之氏・榎本隆充氏・松平康氏・成瀬淳子氏（4月16日）、今井裕弘氏・浦井正明氏（寛永寺、4月16日）、小暮道樹氏・山口政五郎氏（4月16日）、豊田幹夫氏（フェルケール博物館長、4月16日）、中野宥氏（登呂博物館、4月16日）、鈴木通弘氏・川井祐一氏・酒井次吉郎氏（東照宮総代、4月16日）、徳川義宣氏（徳川美術館館長、4月17日）、武部敏夫氏（元正倉院事務所長、4月17日）、井口信久氏（川越市教育委員会、4月28日及び12月31日）、常田富士子氏（静寛院和宮奉讃会、5月16日）、近衛忠輝氏（日本赤十字社、5月20日）、近衛甯子氏（近衛忠輝氏令室、5月20日）、名和修氏（陽明文庫長、5月20日）、桜井勇氏（中川根町、5月21日）、中山光夫氏（掛川市桜木区長会長、5月29日）、牧野豊氏（静鉄サービス、5月30日）、稲葉久雄氏（全国東照宮連合会、6月5

日)、吉田さち子氏(霞会館資料展示委員会、6月9日)、山田香織氏(SBSラジオ、6月14日)、高橋敏氏・大久保純一氏・樋口雄彦氏(国立歴史民俗博物館、6月16日)、田口英爾氏(次郎長顕彰会、6月16日)、志賀太郎氏(福井市立郷土歴史博物館、6月21日)、北見登氏(大塚巧藝社、6月26日)、越前松平家令室(6月27日)、曹洞宗責任役員一行26名(6月30日)、鈴木紀三雄氏(行田市郷土博物館、7月2日、10月4日及び11月28日)、天野忍氏(御殿場高校長、7月8日)、河野康裕氏(静岡県土木部総務係長、7月12日)、鈴木里実氏(静岡県河川協会、7月12日)、平野寛明氏(SBSプロモーション、7月18日)、川越高歴史研究部(7月26日)、西野和豊氏(フェルケール博物館副館長、9月8日、10月4日・16日及び12月20日・26日)、小平市保護士会24名(9月17日)、小嶋泉氏(名古屋城学芸員、9月28日、11月11日及び3月26日)、長谷川孝徳氏(石川県立歴史博物館、9月30日及び11月10日)、太田寿男氏(笠間稲荷美術館参事、10月14日及び11月28日)、佐原市観光関係10名(11月1日)、武田昭氏(相馬市教育長、11月11日)、千枝章氏(相馬市生涯学習係長、11月11日)、半谷和宏氏(相馬市教育委員会学芸員、11月11日)、森威史氏(当館元副館長、11月18日)、森中加奈子氏(東京芸大大学院、11月18日)、日本女子大45回生21名(11月20日)、染葉隆夫氏(登呂博物館長、12月2日)、増田昌弘氏(東京芸大講師、12月2日)、根市英一氏(富士シリシア化学KK、12月13日)、林陸朗氏(国学院大学名誉教授、1月4日)、鶴田孝一氏(大塚巧藝社営業部長、1月11日)、鳥居和郎氏(神奈川県立歴史博物館、1月29日)、向井茂樹氏(静岡新聞社会部記者、3月3日)、小川孝氏(展示ケース建材コンサルタント、3月8日)、牧陽子氏(朝日新聞記者、3月10日)、荒井魏氏(毎日新聞社編集局、3月13日)、徳川慶朝氏(3月14日)、田中文雄氏(静岡県立中央図書館、3月24日)。

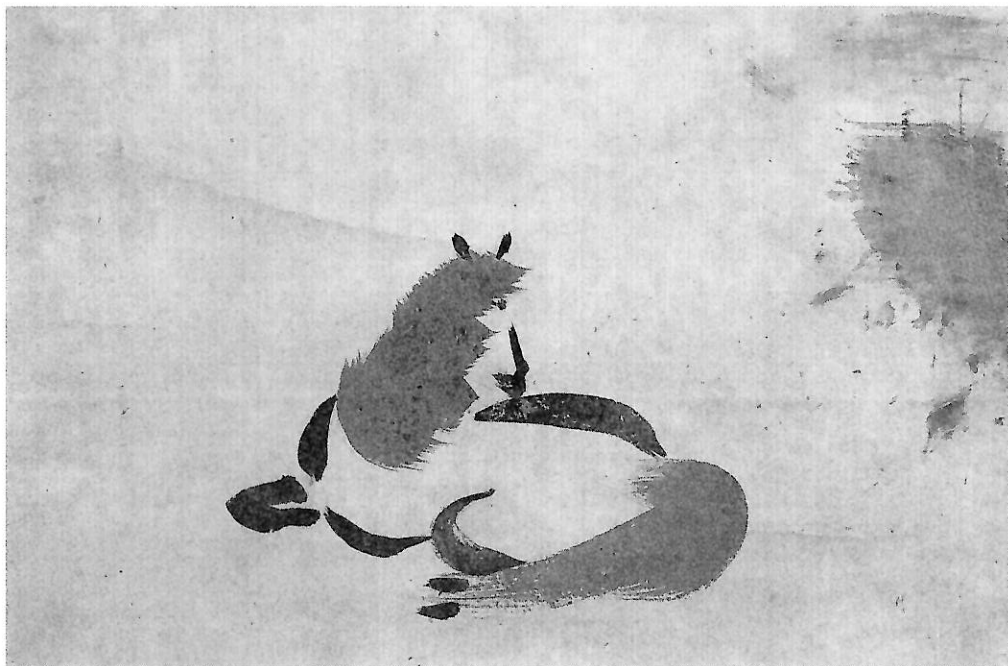


博物館の名品 34

重要文化財 網代駕籠（あじろかご）1 挺

屋根と壁全体を漆塗網代造りとし、四隅の柱には割り竹を用いて鋪居・軒板等の骨組の木部とも黒塗にして要所に金銅の金具を打つ。前方には明りとり朱塗連子（しゅぬりれんじ）の窓を設け、周囲の網代を杵形文編とする。屋根は出入口の便をはかり、両側がはね上げられる仕立てで、杵形文編の網代の御簾を軒下に付す。長柄は欠失。中に敷設された座椅子は桐製で、背もたれと両脚の上部に葵紋を透彫する。徳川家康常用の駕籠で、関ヶ原合戦に用いた竹駕籠とともに伝えられた。

縦101.0cm 横71.5cm 高105.0cm



博物館の名品 35

臥馬図（ふせうまのず） 1 幅

10代将軍徳川家治は絵を好み、その伎倆は斯道の権威の認めるところで、『浚明院殿御實紀』附録卷三には

畫を好せられしが、描法遠く宋元の妙にいたりたまひ、古畫を摹寫し給へるは、眞偽を辨じがたかりしかば、常時其道の宗匠と呼ばれし狩野榮川院典信、養川院惟信、永徳高信、慶舟廣當なども及びがたきことを感服しけりとなり。内勅によりて 大内へも献ぜられ、輪王寺の宮よりも請奉りて進らせられし、三家の方々并に老臣近習の人々へも、たまはりしこと度々あり。

とある。家治の描いた作品の遺例としては『竹鶴図』、『芳野・龍田・富士図』、『芙蓉蝶図』、『馬図』、『鶏図』等があり、この『臥馬図』もその一つで、祐天寺僧拝領の品と伝え、掛幅装の軸裏に「祐天寺什物」の朱印が三箇所捺されており、これを納める箱の表に「馬御繪 浚明院殿 一幅」、同裏に「寶曆十三癸未歲」「四月二十二日拝領之」の墨書がある。

本図は、腹這いの馬を後から筆にしたもので、馬の描法は徳川宗家所蔵の『馬図』に類似するものがあり、同じ馬でも綱吉筆の作品とは趣を異にする。

紙本墨画。縦28.5cm 横42.3cm

明治14年5月 徳川家達奉納



博物館の名品 36

間宮魁像（まみやかいぞう）1面

徳川慶喜は若くして狩野探淵に漢画を習い、将軍となって川上冬崖に製図法を学んだ。遺作として『松に鶴図』・『梅図』・『日之出梅花図』・『石榴小禽図』等が知られる。

この絵もその一つで、旧幕臣の間宮魁が家宝としていたが、大正11年に東照宮に奉納したものである。

添書によれば、某日、魁が謡曲『野宮』の稽古に励んでいた折、音声が思うように出ず、困りはてて頭をかいいた姿を、後日、慶喜が戯れに描いて与えたものであるという。人間慶喜を知る貴重な資料である。明治32年の箱書を有するから、慶喜の静岡閑居時代か、東京移住後まもない頃の作とみられる。

麻本墨画

縦25.3cm 横12.0cm

久能山東照宮博物館報
—— 第 17 号 ——
平成14年 8 月17日 発行
編集発行 久能山東照宮博物館
〒422-8011 静岡市根古屋390
TEL.054(237)2437